

## 議 事 録

|                                |                                                                                                           |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称                          | 1. 浪江町復興計画【第三次】後期基本計画委嘱状交付式<br>2. 第1回 浪江町復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会                                             |
| 開催日時                           | 令和6年6月18日（火）13:30～15:15                                                                                   |
| 開催場所                           | 浪江町役場 2階大会議室                                                                                              |
| 構成員                            | 出席者：（別紙名簿）<br>事務局：浪江町企画財政課<br>受託者：ランドブレイン株式会社                                                             |
| 1. 委嘱状交付式                      | 1 開会<br>2 委嘱状交付（代表 関谷委員長）<br>3 諮問<br>4 閉会                                                                 |
| 2. 第1回委員会                      | 1 開会<br>2 町長挨拶<br>3 委員挨拶・自己紹介<br>4 副委員長の選出<br>5 復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会の策定方針・工程共有<br>6 意見交換<br>7 その他<br>8 閉会 |
| 内容                             |                                                                                                           |
| 1. 委嘱状交付式                      |                                                                                                           |
| 次第1                            | 開会<br>・事務局より開会宣言                                                                                          |
| 次第2                            | 委嘱状交付<br>・浪江町 吉田町長より委員を代表して関谷委員に委嘱状交付ならびに委員長に指名。                                                          |
| 次第3                            | 諮問<br>・浪江町 吉田町長より関谷委員長に諮問。                                                                                |
| 次第4                            | 閉会<br>・事務局より閉会宣言。                                                                                         |
| 2. 第1回 浪江町復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会 |                                                                                                           |
| 次第1                            | 開会<br>・事務局より開会宣言                                                                                          |
| 次第2                            | 町長挨拶<br>・浪江町 吉田町長より挨拶                                                                                     |
| 次第3                            | 委員挨拶・自己紹介<br>・各委員より自己紹介                                                                                   |
| 次第4                            | 副委員長の選出<br>・関谷委員長より佐藤秀三委員（浪江町行政区長会 会長）を副委員長に指名。                                                           |
| 次第5                            | 復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会の策定方針・工程共有<br>・事務局説明（資料1、資料2）                                                         |
| 関谷委員長<br>委員一同                  | 今のご説明に関して何かご意見等はあるか。<br>特になし。                                                                             |
| 関谷委員長                          | ・事務局説明（資料3、資料4）<br>今回提示しているのは検証実施後のとりまとめイメージということで、実際の内容                                                  |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | については次回以降ということによろしいか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事務局     | お見込のとおりである。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 小林委員    | 町民ワークショップの実施について、9月開催予定の本委員会で確認後、10月に開催するというのは町民への周知方法等期間的に問題ないのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事務局     | 町民ワークショップの内容については8月開催の庁内検討委員会で検討していく予定であるが、10月開催までの町民への周知を含めたスケジュールについて再度見直したい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 佐藤(秀)委員 | これまでも、こういった町民参加型のワークショップの機会はあったが、段々参加人数も少なくなっていると思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事務局     | 検討したい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 岡委員     | 検証作業の事例として農業関係が記載されているが、後期基本計画に向けて、農業については将来の世代が夢と希望を持てるような方向性が示せるとよい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事務局     | 本日お示しの施策検証シートに基づき現在各課で作業を進めている。また検証結果をもとに事務局でヒアリング形式による内容確認も行うため、本日委員会からのご指摘等もヒアリング時に情報提供させていただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 関谷委員長   | 現行計画の30～31頁に、「(1) 農業の再開」として課題認識等の記載があるが、このあたりの内容更新も重要になるだろう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 鈴木委員    | 産業の再開という視点では主に製造業が多くなっていると思うが、第3次産業は震災以降減少の一途であり、後期基本計画として商業をどう再考していくのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 関谷委員長   | 今後議論していくにあたって重要な視点になるだろう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 次第6     | 意見交換                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 木村委員    | この【第三次】復興計画策定段階では今のF-REIは影も形もなかったが、先般、浪江町の国際研究学園都市構想が策定されたこともあり、そういったエッセンスも後期基本計画には盛り込んでいただけたらと思う。<br>またF-REIの職員として、研究者だけでも500人規模という相当な人数この町に住むことになり、半分以上はいわゆる若手の人達になる。そういった若い人達が、ワクワクして暮らせるまちづくりというものを目指していただきたいし、多くの研究機関でやられているような、研究者だけが団地に集まって住むようなことではなく、町の皆様と一緒に生活をして、町の一員として暮らしていきたいという思いもある。外国人研究者の応募も多くあり、そういった環境整備、特に家族連れで来られる場合の子どもの教育環境や、ご家族の生活環境と病院、医療システムの整備、こうしたものもあるのかと思う。交通アクセスの問題等、様々解決していかなければいけない問題もあるのではないかと。 |
|         | 今後、F-REIでの研究開発を推し進めて、しっかりと成果を出しながら、浪江町のまちづくりに対して、農業、林業、或いは獣害対策、企業誘致等々、いろんな形でお手伝いができるのではないかと考えている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 関谷委員長   | 浪江町復興計画における学園都市構想の位置付けはどのようになっているのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事務局     | 今お話しがあったF-REI関係のほか、【第三次】計画策定時には無かった施策・取組についても、資料3でお示しした前期基本計画の検証作業と並行して、新規内容についても整理することになっており、ご指摘のあった件を踏まえて皆様にご確認いただけるようにしていきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関谷委員長<br>事務局 | 後期基本計画としての施策体系も見直していくとの理解でよろしいか。<br>お見込のとおりである。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 関谷委員長        | 浪江町復興計画として、浪江町にとってどういう意味があるかという観点で今後の施策体系の記載が変わってくると思われる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 佐藤(秀)委員      | F-REI や駅前開発といった今後の新しい取組に関しては、町民との関わりを積極的につくってほしい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 鈴木委員         | 自身は川添地区に住んでいるが、住民の帰還は進んでおらず、現在の居住実態もなかなか把握できていない。アパート等は結構建てられてきたが、アパート入居者も周囲に誰が住んでいるのかわからないので、これから地域の組織づくり等も考えていく必要があると思う。                                                                                                                                                                                                                                               |
| 佐藤(秀)委員      | 【第三次】計画の表題に「夢と希望があふれ 住んでいたいまち 住んでみたいまち」とあるが、未だにそうはなっていないのではないかと。親族の反対を押し切ってまで浪江町に帰ってきたが、事情で再び町外へ戻ってしまったような例もある。最期まで住めない町なのに、住んでください、来てくださいとは言い難い。この後期基本計画の5年間のうちに最期まで住めるまちへの道筋を考えていかなければならない。                                                                                                                                                                            |
| 関谷委員長<br>事務局 | 重要なお指摘かと思う。後期基本計画のどこに受けられるか？<br>先程の鈴木委員からのご指摘に関しては、資料1の裏面に記載の施策体系をご覧いただくと、基本方針Vの施策3「地域コミュニティ活動の推進」ということで、従来の行政区における地域コミュニティ活動について、震災後の状況を踏まえた取組、或いは移住の推進について記載しており後期計画としては、移住者を含めたコミュニティ形成に係る内容等が入ってくると考えられる。<br>また、佐藤(秀)委員からご意見いただいた部分は基本方針IVの関係で、健康づくりの推進、医療の充実、或いは介護・福祉の充実に関連する。町内のみならず周辺自治体との広域的な取組としても考えていく必要がある。いずれにしても今進めている現行計画の検証作業を踏まえ、【第三次】後期基本計画としてまとめていきたい。 |
| 関谷委員長        | 前期基本計画では人口が増える前の課題が多かったが、戻ってきた方から見た課題が新たに生じているように思われるので、その点を入れて議論していく必要があるのではないかと。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 大波委員         | 【第一次】計画策定時の議論は、いかに早く避難指示を解除して浪江町に住めるようになるかがメインテーマであり、次の【第二次】計画では解除後の浪江町をどう発展させるかについて検討してきた。今度の【第三次】計画は、これまでの復興の取組がある程度固まった中で、浪江町を離れて生活している人達がこの先どうなるのか、避難先に住み続けるのか浪江町に戻ってくるのかどうか、ある程度方針を示していくことが重要ではないか。ふるさとに戻ってきて一生を終えたいという声もあるので、国等の機関との話し合いの中である程度の道筋を示してほしい。また、津島地区は一部避難指示が解除されたが人は依然戻ってきていない。住める場所は少ないかもしれないが面積は広いので今後の津島の復興についても考えてほしい。                            |
| 事務局          | 様々な事情により町外で生活されている方が、今後町に帰るのかも含めてどうお考えなのか、しっかりと選択肢があるような形で示したいと考えている。津島地区については、特定帰還居住区域の制度もでき、今後の展開が見込めるのでしっかりと検討して参りたい。                                                                                                                                                                                                                                                 |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岡委員   | <p>帰りたいけれども帰れない方、時々帰るような方は、多少の遠慮というものがあるのではないか。そういった方々が気兼ねなく帰って来られるような環境づくりが重要だと思う。また、家屋も傷んでしまいどうしようもないという方もいるだろう。先日、長崎に避難した町民の方と話をしたが、気持ちは「戻りたい」ということを話していたので、そうした方たちの気持ちにも配慮してほしい。</p> <p>私は浪江町社会教育委員会に所属しており、生涯学習の活動を行っているが、参加者が増えてきている。今後もふれあいセンターでの取組には関心を持っていただければと思う。また、図書館も大分充実してきており、こうした図書館が町にあるのは素敵なことだと思う。</p>                                                                             |
| 前司委員  | <p>災害の記録の伝承について、薄れていく記憶を記録として残した紙芝居を他県で取組んでいる。震災を知らない子ども達も増えてきた中、浪江町は震災があつて原発事故の影響もあったが、ここに帰って来て頑張っている人たちがいることを発信し、浪江町に来てほしいと伝えている。こういった災害が自分の身に降りかかった時に教訓になればいいと考えている。私も浪江町には時々帰る側であるが、家は無くて土地、田畑があるので、これからも浪江町民として胸を張っていきたい。</p> <p>移住者も結構増えてきたが、移住者は震災前の町民コミュニティになかなか入れてもらえないようなこともあるので、移住者にとっても浪江町がふるさとだという気持ちを持てるようなものを作っていかなければいけないのではないか。特に若い世代の移住者が多くいるため、その人達が町民と仲良くできる環境を作った方がいいのではないかな。</p> |
| 半谷委員  | <p>私は農業従事者であるが、農業や林業、漁業を再開した後の継続性を担保する仕組みが必要ではないか。平成30年頃に補助金の申請をして営農再開したが、補助は5年間までで、5年経ってそこで辞めてしまっても町も県も何も言えない状態にある。経営体の育成面もしっかり進めていく必要がある。また、営農環境が景観の維持や災害の防止といった多面的な機能があることも計画としてしっかりと位置付けていくべきではないか。</p>                                                                                                                                                                                            |
| 事務局   | <p>ご意見の通り、営農再開等については様々な支援施策を各課で行っているところだが、次の担い手を確保し、将来的にも継続性のある取組については、今後の議論のポイントになってくる。現在行っている検証作業の取りまとめと合わせて、こうした視点も踏まえながら後期計画を検討する必要がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 緒方委員  | <p>計画のビジョンとして「住んでみたいまち」とあるが、やはりこの計画書を見て「住んでみたい」と思ってもらえることが大事で、地域のコミュニティ活動の様子をもっと載せていくとか、面白そうなまちだと思ってもらえるようにした方がいいのではないか。移住定住の関係でも、移住者や定住者の動向等も掲載すべきだろう。計画書を読んで、ワクワクできるよう部分があってもいいのではないかな。</p>                                                                                                                                                                                                          |
| 関谷委員長 | <p>計画内容を最終的にまとめる段階で、併せて内容を補足するような資料があってもいいだろう。この場は中向けの話になるが、外向けに作られた資料というものも必要ではないか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 小林委員  | <p>子ども達も読んで理解できる計画がいいと感じた。子育て支援の課題として子どもが増えている中で定住しやすい環境を整備していくことが重要だろう。家庭と学校だけでなく、地域や保護者同士のつながりが見えにくくなっていると感じており、現在</p>                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | <p>も PTA や保護者会がない状態ではあるが、保護者同士のつながりが保たれるような仕組みがあるとよい。スクールバスは便利だが子どもが家と学校の往復になっており、地域を知る機会がなくなっている。災害時に自分で避難する、地域の人を頼る力が育たないのではないかと懸念している。地域全体で子どもや高齢者が交流できるような仕組みがあるとよい。</p> <p>今日この会議前に保育参観に出席していたが、これから国際化や、いろんな特性のある子も増えてくるということで、インクルーシブ教育として多様性を認めつつその子どもたち一人一人に合った教育環境、居場所づくりができれば、個人の親としても安心できるし、自分だけで子どもを育てているのではないと思えるような、孤独感とか孤立感の解消というところにも繋がっていくと思う。そういう、地域全体で子育てを支える、子どもを支えていくっていうところを意識してほしい。</p> |
| 関谷委員長   | <p>「子育て」に関して、計画としては親の視点が中心で子どもの視点が無いような気がする。子どもの人数が増えてきたということで、これからどう充実させていくのかという視点も必要だろう。の、今後もじっくり議論していかないといけないところかと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 前司委員    | <p>ゼロカーボンの視点で水素社会実現に向けた構想も新たに進んできたところ。こうした取組も新たに記載してほしい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 佐藤(秀)委員 | <p>地域コミュニティに関して行政区のあり方の検討とあるが、現在町内には 49 の行政区がある。山等の不動産を持つ行政区があれば、金銭的蓄えの無い行政区もあり、統廃合しようにも支障となるところが大きい。新しい行政区を作り直す動きもあるがなかなかうまくいかない。行政区がしっかり機能していかないと災害時の対応等、地域で子どもを守ろうというような雰囲気になっていかないと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                  |
| 事務局     | <p>ご指摘の通り、庁内でも行政区に係る問題は認識しているが、本計画としては行政区活動への支援という形で記載しているが、具体的に行政区をどう見直すかというところの方向は記載していない。今ご指摘の部分を含めて、今後 5 年間でどうしていくのか検討が必要であり、どのように記載していけるか担当課にも確認していきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |
| 関谷委員長   | <p>少なくとも現状と課題認識としては記載しておくべきだろう。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事務局     | <p>現状と課題認識を踏まえて、どのような取組が書き込めるのか検討したい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 岡委員     | <p>住みよいまちであることが一番である。昨年、30 歳から 70 歳代までの移住者との交流する機会があり、町に対する感想等を聞くことができた。浪江町は「住みやすい」ということ、仙台や東京にも行きやすい、雪が降らなくていい等々、良い面が聞こえた一方、住む場所を確保するには高価だということを伺った。元から居る浪江町民と新しく移住されてきた方々も含めて、1 つの浪江町かと思う。今後もそういう方々が集まることのできる機会を設けて、様々な意見をいただければと思う。</p>                                                                                                                                                                      |
| 前司委員    | <p>先程の再編の話は、消防団等も一緒に考えていかないと、機能しない行政区が出てくることになるだろう。</p> <p>もう一点、庁内で議論して様々な目標となる数字を設定していくのも結構だが、町民視点での浪江町の評価とか、移住してきた方へ町の評価を聞き、最初は低かったけれど、計画が進んでいくうちに評価が上がって、幸福度のようなものが上がっていくとか、そうした見せ方もいいのではないか。</p>                                                                                                                                                                                                            |
| 事務局     | <p>重要な視点だと思うので検討したい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大波委員<br>事務局<br>前司委員<br>青木委員 | <p>人口が回復基調ということだが、新たに移住してきた町民は何割くらいか。約3割ほどである。</p> <p>外国人の受け入れということも視野にまちづくりを考え直す必要があると思う。</p> <p>ある程度日本語ができる外国人の人材を10年間で毎年10人ずつ受け入れていくような計画もあるようだが、浪江町に住んでもらったとしても、公共交通の利便性とか、休日の過ごし方まで、企業側で面倒見きれないこともある。浪江町からJR線で仙台まで出ていけても夜に帰る便がなく、南相馬のホテルを利用する方がいいようになってしまう。</p> <p>関係人口の観点で、会社のイベントとして年1回でも700～800人規模の動員を浪江町内で行いたいと考えているが、そこでも交通利便性が課題になる。常磐線特急の増便とか、仙台空港からのバス等があればもっと東京・仙台両面からの呼び込みも考えられる。いずれにしても、この後期基本計画に、関係人口をいかに増やすかという内容をどこかに盛り込めればいいと思う。</p> |
| 関谷委員長                       | <p>この地域に学生や研究者を連れてくるのが何回かあったが、結局泊まるのは福島市か南相馬市ということになってしまう。やはり泊まる場所や交通の便というのは関係人口の構築に重要な鍵になるだろう。また、これからもそういった人達が滞在できる場所があれば、町も変わっていくのではないかな。その辺を踏まえた議論がもっとあってもいいかなと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 佐藤(祐)委員                     | <p>医療や福祉は、ある程度広域的な見方をしないといけない。浪江町内で特別養護老人ホームを抱えたり、総合病院を抱えたり出来ればいいが、町単独では、かなり大変である。これから町民が増え、色々なものの採算が取れるのであれば、民間企業の参入等もあると思うが、当事業所もまだまだ採算面は苦しんでいるところ。後期基本計画の5年間についても、新しいまちを創造するんだという気持ちで取組んでいただけたらいい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |
| 前司委員                        | <p>建物を解体した後の空き地の管理不全の問題がある。例えばここで商業テナントをやりたいが、空き地を売ってもらえなくてできないという人が結構いる。空き地の管理もやっていかないと景観も悪いし、対策していかないといけない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 佐々木委員                       | <p>郷土芸能を心配している。津島には田植踊保存会が5つあるが実際活動しているのは2つしかない。東北学院大学の生徒に協力してもらっているが、そういった支援がなくなればそのまま消滅してしまう。伝統芸能の保存が今一番難しい状態。</p> <p>特定復興再生拠点区域となった一部の津島地区の除染作業は完了しているが、そこに帰ってきたのは1～2人という状況。復興組合で田んぼの再開に取り組んでいるが助成期間が5年までであり、その後どう維持していくのかが問題になる。</p>                                                                                                                                                                                                                 |
| 緒方委員                        | <p>地方に移住してきて起業するといった流れがブームのようにになっている。しかし復興庁の補助は5年で終わってしまう。移住者の方と話をすると、今後5年経ったときにやっていけるかという不安をもっている方が多い。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 関谷委員長<br>事務局                | <p>復興計画を拝見したが将来の見通しといった内容はどこかに記載されているのか。</p> <p>別途人口ビジョンといった長期見通しの数字はあるが、この計画としてはあくまで設定した計画期間に応じた内容を記載している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 関谷委員長                       | <p>その後の見通しみたいなものの記述として少し書かれていてもいいのではないかな。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|       |                                         |
|-------|-----------------------------------------|
| 次第 7  | その他                                     |
| 青木委員  | 次回開催日程について、2 週間前ではなくもう少し早めにお知らせいただきたい。  |
| 事務局   | 早期に決定したい。                               |
| 関谷委員長 | 会場のレイアウトについて、事務局側も委員と並んで入ってもらったほうがいいのか。 |
| 事務局   | 次回の会場レイアウトについて再検討する。                    |
| 次第 8  | 閉会                                      |
|       | ・事務局より閉会宣言                              |
|       | 以上                                      |